



NO. 886  
 発行 2016年  
 6月29日  
 国鉄労働組合  
 新潟地方本部  
 発行責任者  
 上石 昌彦  
 編集責任者  
 教 宣 部



# 仲間を思いやる 意識を持つこと

地本組織強化・拡大経験交流集  
 会が6月18日13時から地本事務所  
 で開催されました。

今年は仙台地本へ講師を要請し  
 ました。忙しい中、組織部長の千  
 葉さんから仙台地本の組織拡大の  
 取り組みについて講演していただ  
 きました。

交流集会は、藤井執行委員の開  
 会あいさつでスタートし上石委員  
 長のあいさつ・佐藤組織部長を座  
 長に選出し進行しました。



## 千葉組織部長 拡大について講演

その後、千葉さんの講演、全体  
 の意見交換・職場の状況について  
 発言がありました。

全体で20名が出席し組織拡大に  
 ついて出席者全員から発言があり  
 盛り上がりしました。



## 仙台地本の取り組み

只見線沿線調査で新潟地本に来  
 たことがある。

仙台地本の組織拡大の取り組み  
 について3月、4月に5名の拡  
 大があった。組対会議は3回開催  
 した。職場ではグループを作って  
 業研や飲み会など開催し交流を深  
 めている。それで5名の拡大につ  
 ながった。

## 拡大者が拡大へ

拡大者が、あらたに拡大してい  
 る状況だ。国労加入者の思いは素  
 晴らしい。国労は組織が少数なの  
 で、すごい思いがあつて国労加入  
 したと考える。労働組合は何か、  
 訴えていく。

弱い人の要求を聞いて職場で活  
 動していくこと。

## 全体の意思統一が重要

仙台では平成採は、平成3年か  
 ら入社している。毎年1500人  
 ×20数年。みんな東労組に加入し  
 ている。入社当時からカクマル主  
 導だったが国労として運動を訴え  
 てきた。労働者が主人公・仲間を  
 思いやる闘い・意識を持つこと。



## ローカル線は今

JR西日本の三江線～島根県の江津駅から広島県の  
 三次駅を結ぶ108.1キロのローカル線です。全線  
 の所要時間は約3時間半です。

列車の本数が少なく、下りが8本・上りは9本で  
 す。全線を通して乗ろうとすると、上り・下りとも3  
 便づつしかありません。

JR西日本は、三江線を廃止しようとしています。  
 地方ローカル線は無くしてはならない大切な公共交通機  
 関です。特に学生の通学、そしてお年寄りの病院への  
 通院には絶対に必要です。

もうからないから、廃止しすると言っていますが、  
 ダイヤ改正で本数を減らし利用しにくくさせています。  
 もっと利用しやすいダイヤ設定なら収益は上がると考  
 えます。

新潟では、只見線が、平成23年7月に発生した豪  
 雨により、会津川口～只見間の橋梁が3カ所流されま  
 した。現在は、バス代行になっています。

JR東日本～鉄道を再開させた場合は年間2億8千  
 万円の経費がかかるとの試算をまとめました。沿線自  
 治体が6月18日に会津若松市で開いた会合で明らか  
 にしました。JR東日本は経費が5300万円で済む  
 バス路線に転換したい考えですが自治体側は鉄道での  
 復旧を求めています。

国労は、ローカル線廃止反対の闘いを利用者の人た  
 ちを巻き込んで運動を進めています。以前、只見線や  
 米坂線へ「山菜共和国号」などイベント列車を走らせ  
 訴えてきました。

只見線の全線復旧を訴えていきましょう。



### 特効薬は無いが 全体の意思統一を

高齢化が原因で国労組合員としての決心や拡大への思いなど難しい面がある。

郡山駅は5名の国労加入によって職場の雰囲気が変わってきた。組合員の意識が変わった。

職場では若い人たちへ仕事を教えたりしている。職場実態調査などで拡大しているところは積極的な取り組みをしている。特効薬は無いが全体の意思統一が重要だ。

### 単独で組合説明会

職場での組合説明会を国労単独で実施した。JR連合・東労組・国労の三者で覚書を行った。運転系統は東労組が強い。駅、施設関係は弱い。毎年、新採対策を取り組んでいる。職場で訴え、民主的な運営をしている。

これをやれば結果が出ると判断している。



### 自分のやれる ところから 進めていく

現場長交渉の実施、職場活動の重要性・地本内の職場オルグを取り組んで温度差が出ないようにする。青年対策は学習を強化する。65歳以上の退職延長の要求。国労のパンフ配布や組合説明会の実施。やれることはやった。職場でイニシアチブが取れるところは取っていく。それが積み重なっていった。分会レベルで、できるところから実践していく。



### 全体の意見・報告

●分会活動、見える運動にしていこう。新潟は点在だが多数派をつくり職場活動を取り組んでいく。日常のつながりの中で訴えていく。



○新採へ対応できる体制は重要だ。職場はプロパー化が進んでいる。現在プロパーが7人。過員で廻している。



### 上石委員長 あいさつ

### 国労の正しさを 訴えていく



分会活動で組織拡大は重要だ。新潟地本は拡大が無い。組織状況は厳しくなっている。職場では他労組との交流を図っている。

現状では、高齢者が多くなっている若い人が加入しにくい。国労加入した人が新しい仲間を拡大するというのを学んでいきたい。

職場で国労加入を訴えていくことが大切だ。分会活動で国労の正しさを訴えていくこと。



●報告できることは無いが分会8名が分担して地本を支えていく。分会集会を開催し少数でも話し合っている。

●職場は国労が少ない。職場環境は良くなっている。自由な雰囲気だ。他労組から話しかけてくるが、どう訴えていくのか。



○分会組織が機能していない。分会長不在でやっている。点在なので飲み会などで集まる。職場では年休が取得できない状況だ。年休が流れる。若い人も訴えている。買い上げされる人もいる。



女性社員からも話がされている。国労が訴えているから少し改善された。社会人採用は会社を守られている。情報など配布していきたい。

●報告できることは無いが分会8名が分担して地本を支えていく。分会集会を開催し少数でも話し合っている。



分会三役会議が開催されていない。メールだけの連絡になっている。毎月1回開催し意思統一をしていくこと。分会全体がまとまっていくこと。国労の運動は、70年間、積み重ねてきた運動だ。地域利用者のアンケート調査も大事な運動だ。現在、それが足りなくなってきた。現在、私たちの運動は私たちの要求だけでなく、地域の人たちを巻き込んだ闘いを進める。

参加者から多くの意見・報告がありました。ありがとうございました。全体の意見を職場活動に生かしていきたいと決意しています。

